

令和 6 年度

幼保連携型認定こども園 常葉大学附属たちばな幼稚園

学校評価委員会（報告書）

和6年度 幼保連携型認定こども園 常葉大学附属たちばな幼稚園 学校関係者評価表

- 教育目標 美しい心、よく動く体、豊かな感性と社会性を持った子どもの育成

1 目指す子どもの姿

- ・明るい子 ・健康な子 ・がんばる子 ・心豊かな子

A 達成 B ほぼ達成 C 努力が必要 D 達成できていない

項目	具体的な目標	自己評価	結果・課題	関係者評価	関係者評価より
1 明るい子	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつができる。 ・意欲的に遊び込むことができる。 	<p style="text-align: center;">A R5 B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・朝のひとときや読み聞かせを通し、話を聞こうとする態度が見られるようになってきた。(0歳児, 1歳児) ・保育者自らが繰り返し挨拶をしていくことで、少しずつ子どもたちから挨拶ができるようになっていった。(2歳児, 満3歳児) ・朝の挨拶は大きな声で自分からする子が多くいた。自分で好きな遊びを見つけ友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わうことが出来た。(3歳児) ・カプラやごっこ遊びなど自ら好きな遊びを見つけ意欲的に遊べている。(4歳児) ・アイデアを発信し、友達と一緒に取り組む姿が見られた。(4歳児) ・元気に挨拶出来る子が増え、気持ちよくスタートすることが出来る様になった。自分から挨拶する子は増えたが、何気ないお礼を言う事が少なかつたり、謝る前に手が出てしまったりする事もあったので、課題がある。(5歳児) ・園庭の駐車場の時間が終わるとすぐ戸外に出て朝から体を動かして主体的に遊ぶ事で、その後の活動も意欲的に楽しむ事が出来るようになった。(5歳児) ・次の活動に移行する時など、具体的にイメージを伝えどのような気持ちで取り組んだらよいかを考えられるようにする事で、けじめや協調性を持って取り組めるようにしてきた。(5歳児) 	<p style="text-align: center;">A R5 A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが挨拶を身に付けていくには、保育者が繰り返し進んで挨拶し、シャワーのように浴びさせていくことが一番自然な形である。 ・園では登園時に先生方が毎朝笑顔で気持ちの良い挨拶をし迎えてくれ、良いスタートで始められる。 ・子どもたちが主体的に遊ぶことで、「もっと〇〇したい」と言う気持ちが出てきて、遊びがより深くなっている。 ・異年齢とのかかわりは大切なので、今後も続けてほしい。

2 健康な子	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことが好き。喜んで食べる。 ・命を大切にすることができる。 	<p>A</p> <p>R5 A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の前等、手洗いの習慣がついた。また手洗いの際に袖を上にあげようとする事も身についてきている。(0歳児,1歳児) ・手足の動かし方が上達し、のびのびと体を動かして園庭やホールで遊ぶことができた。(2歳児,満3歳児) ・手洗いに加え、うがいの習慣もついた。トイレも概ね自立している。(2歳児,満3歳児) ・伸び伸びと体全体を使って遊び、友達と楽しく過ごすことが出来た。(3歳児) ・3学期から朝の時間に園庭に出たことで、異年齢との関わりが増えていった。年上の子の姿に興味や憧れの気持ちを持ち、リレー対決も楽しむことが出来た。(3歳児) ・クラス対抗リレーに意欲的に取り組むようになり、勝負の面白さを感じるようになった。(4歳児) ・野菜の栽培を通して、生長を気にかけながら進んで世話をすることができた。(4歳児) ・今年度は年間を通してリレーやドッヂボール等色々な対戦を楽しみ、自分達で計画して遊ぶ中で体を動かす事が大好きになり、病気になりにくい体づくりができた。(5歳児) 	<p>A</p> <p>R5 A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大きなかがや感染症の流行もなく過ごせたことは、とても良かった。 ・今年度は竹馬も体験できたり、のびのびと体を使って外で元気に遊ぶことができた。 子どもにとってあそびはとても大切なもののので、今後も外でたくさん遊んでほしい。 ・0歳～5歳までが一緒に遊べることはしあわせなこと。みんなが互いに刺激し合って、楽しみ学んでいってほしい。
3.がんばる子	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から進んで取り組み、最後まで頑張ることができる。 ・考え方工夫したりすることができる。 	<p>B</p> <p>R5 B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びの中で友だちの姿を見て真似をしたり、0・1歳児なりに考えたり工夫して遊ぶ姿が見られるようになってきた。(0歳児,1歳児) ・衣類の着脱、身支度など、自分の力でやってみようという気持ちを子ども自身で持つことができるようになった。(2歳児,満3歳児) ・少しづつ自分の力でやってみようとする気持ちを持つことができ、自分で出来た喜びを味わうことが出来るようになっていった。(3歳児) ・片付けでは、子どもの頑張りを認め、励ましてきたことで、最後まで取り組もうとする姿が見られるようになってきた。(3歳児) ・縄跳びチャレンジカードに挑戦し、諦めず繰り返し練習する姿が見られた。(4歳児) ・子どもの主体性を取り入れる為に話し合う機会を意図的に作り、自 	<p>B</p> <p>R5 B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「がんばれ！」という言葉は、人それぞれ受け取り方が違い難しい点はあるが、幼稚園では大切に子どもたちに使っていってほしい。 ・「がんばる」ということは、「もっと！」に繋がり、それが意欲になっていくので、たとえほんの小さな成長でも、それをがんばったこと

			<p>分達で考える事で仲間と工夫しながら行事や活動・クッキング等に意欲を持って取り組むことが出来た。(5歳児)</p> <ul style="list-style-type: none"> 片付けや自分の身の回りの物の管理などが出来ない子が多く人任せにしてしまう姿もあり、教師からの声掛けが多くなってしまった。その必要性を子ども自身が感じられるような工夫が必要だった。(5歳児) 		<p>に対して評価して(ほめて)あげると、それが自信につながっていくと思う。</p>
4.心豊かな子	<ul style="list-style-type: none"> 友だちや周囲の人を思いやり、感謝の気持ちを持つことができる。 感じたことや考えたことを表現することができる。 	B R5 A	<ul style="list-style-type: none"> 友だちの存在に気付き、一緒に遊ぶ楽しさを知り、友だちの持ち物を渡してあげようと気付いて思いやる心が芽生えてきている。(0歳児,1歳児) 言葉が増え、友達とやりとりをしながら自分達で遊びを楽しむことができるようになった。(2歳児,満3歳児) 遊びの中で友達への思いやりの心が少しずつ芽生えている。(2歳児,満3歳児) 互いに誘い合ったり、困っている子がいると声を掛けたりすることができるようになってきた反面、自分を優先しようとしてトラブルになることも多かった。都度、相手の思いに耳を傾けようしたり、考えたりすることが出来るよう声を掛ける必要があった。(3歳児) 感じた事や考えた事を言葉で表現することができる子が多いが、最後まで落ち着いて話を聞く姿には課題が残る。(4歳児) 友だちを遊びに誘ったり困っている子を助けようとする姿が見られたり、保護者に感謝の気持ちを込めて手紙や作品を作る姿が見られた。自分の気持ちは素直に伝えるが、相手の気持ちを考えずに行動する場面も多々あり繰り返し伝えてきたが、保育者の声掛けが増えてしまった。自分でもっと考える場面を作っていく必要があった。(5歳児) 	B R5 A	<ul style="list-style-type: none"> 異年齢のかかわりは、保育者が教え込むことはできない。みんなが混ざりあって過ごすことで互いが育ちあう。 目指す子どもの姿は、4つに分かれているが、全て共通点があり、つながっている。一人一人を丁寧に見ながら、今後もすすめてほしい。

2 運営の重点

A 達成 B ほぼ達成 C 努力が必要 D 達成できていない

学年	具体的な目標	自己評価	結果・課題	関係者評価	関係者評価より
1 幼保連携型認定こども園としての円滑な運営	<ul style="list-style-type: none"> ・課題等に対する職員の協働態勢の推進 ・職員の健康維持やワークライフバランスに対応した働き過ぎの防止（働き方改革関連の法改正への対応） 	<p>A R5 B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・業務分担は、分掌を中心に職員同士が主体的に取り組み、機能的で発展的な職員組織を構築できるよう、課題に対して話し合いを重ね、最善策を出し協力する体制の維持ができているので、今後も続けていきたい。 ・職員は報告・連絡・相談を確実に行い、円滑な組織運営に努めるよう意識して動いているが、全職員が一堂に会することはなかなか難しいため、伝達事項は文字化して情報共有している。 ・日常から職員同士声を掛け合い、日々の生活や行事、特に年度初めや年度末の繁忙期等には、学年の垣根を超えて協力し合い、相互の信頼関係を大切にしている。 	<p>A R5 B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員が集まることはできないため、文字化し全員が情報共有していく方法は確実である。 ・日常から声を掛け合い協力し、できる時に仕事を進めていくという形ができているということが素晴らしい。
2 子どもの健康・安全の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人一人の健康状況の把握と、職員間での適切な情報共有に努める。 ・子どもが安全に過ごせる園の環境づくりに努める。 ・ 	<p>A R5 B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの体調の把握や視診を丁寧に行う。変化や怪我が等ある時は管理職に連絡と報告を行い二重の確認をすることで情報共有している。全職員が共有できるよう職員室にホワイトボードを活用し対応を怠らないように努めている。 ・安全、安心に留意した保育を行えるよう全職員の研修等で職員同士が学び合えるよう時間の確保をしている。 ・園庭での遊びが安全に行えるよう危険箇所を何度も点検や確認を行い、研修を重ね職員同士共有することで安全に遊べる園庭環境づくりに努めている。 	<p>A R5 B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・けが、早退等の情報を、ボードを使用して職員間で情報共有していく方法は、状況把握だけでなく、その後の対応や信頼関係にまでつながっていくので大切にしていってほしい。
3 充実した保育・教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・資質・能力の三つの柱と、その具体的目標である幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を念頭においた質の高い保育・教育に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・子供達が主体となり遊びを進めていく為の環境づくりを引き続き心掛けていった。保育者が答えを導いてしまうのではなく、子供達が試行錯誤しながら遊びを進められるよう充分に時間を確保するよう努めた。学びに繋がるような援助とは何か考え、子供達同士の対話を大切にしながら協同活動を多く取り入れるようにした。これからも保育者と子供達が保育を作り上げることを大切にていきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人をよく見て、また子どもたちのアイデアや考えをたくさん吸い上げ、それを活かした活動がでできている。

	<ul style="list-style-type: none"> 遊びを主とした、子どもの主体的な取り組みを促す環境づくりに努める。 	R5 A	<ul style="list-style-type: none"> 育ってほしい 10 の姿を意識しているが、幼児理解の読み取りが不十分なところがある。振り返りや記録のポイントを押さえられるよう保育者間の情報共有をしていけるようにしたい。 	R5 A	
4 園行事の適切な実施	<ul style="list-style-type: none"> 主旨や目的を明確にした、子どもが充実感や達成感を育む園行事の計画・実施に努める。 保護者支援や地域への情報発信に努める。 	B R5 A	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通じ行っている行事・活動・参観会や自由参観等は、子どもたちの主体性を大切にし、それぞれ園としてねらいを持って行っているので、今後も継続して園に対する保護者の理解を深められるよう工夫していく必要がある。 未就園児教室として、「あそびの会」を 6 回/年、「園庭開放」を 5 回/年実施し、親子で楽しく参加していただいている。在園児とのふれあいを毎回計画し好評を得ているので、来年度以降も継続していきたい。 	B R5 A	<ul style="list-style-type: none"> ブログや動画配信のことに関しては年々管理が難しくなっている。課題は多いが、園のことを知つていただくというプラスの面もあるので、細心の注意を払いながら丁寧に対処してほしい。
5 連携	<ul style="list-style-type: none"> 大学、短期大学部及び附属園・校との研修協力、実習協力、交流等を行い、附属園としての役割遂行に努める。 	A R5 B	<ul style="list-style-type: none"> 大学・短期大学部・中高は交流実習などの受け入れや講義に参加する事での連携ができた。また今年度初めての試みで「たちとこなつまつり」を大学と行う事が出来た。小学校との連携は、4歳児が小学校に行き、1 年生と一緒に遊んだり校内探検をしたりする事が出来た。スタートカリキュラムの一環で職員が小学校に出掛け、手遊びなどを行う事が出来た。子ども達にとって幼小連携が重要とされているので、今後もより良い形での交流を図りたい。 	A R5 B	<ul style="list-style-type: none"> 学園内の連携については、互いにプラスになる面があるので、今後も協力して進めていってほしい。
6 職員及び職員組織の力量向上	<ul style="list-style-type: none"> 職員各自の自己目標の設定、進捗状況の確認や評価を行い、意識化を高めた取組を促す。 OJT の意識を持った日常的な研鑽をすすめ、園全体で取り組む研修に向けた協同的な研修による力量の向上に努める。 	B R5 A	<ul style="list-style-type: none"> 園内外の研修に積極的に参加し質を高めていけるよう努めた。 園内研修では、園庭環境については 3 年目を迎えた。今年度は「もっと」遊びたくなる園庭づくり～異年齢のかかわりを通して育ち合う為に～のテーマを掲げ、課題である「異年齢のかかわり」に着目し他学年同士の子ども達が交じり合い、遊びを楽しめる「もっと」遊びたくなるような園庭づくりに努めた。 子どもの具体的な姿を捉えながら異年齢での育ちや課題、悩みを共有してきた。改善点を考え合うことで異年齢同士の自然なかかわりが生まれやすい環境をこれからも目指し育ち合いに繋げていきたい。 	B R5 A	<ul style="list-style-type: none"> 異年齢のかかわりについて学んだことで、その大切なことが具体的に把握できるようになったとのこと。今後もさらに研究して頑張ってほしい。 運営の項目の自己評価で A を 3 つつけたことが素晴らしい。価値ある A を今後も続けてほしい。

3 各学年の重点

A 達成 B ほぼ達成 C 努力が必要 D 達成できていない

学年	具体的な目標	自己評価	結果・課題	関係者評価	関係者評価より
0歳児	<p>「身近な保育者と信頼関係を築き、安心して過ごす。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人のリズムで生活し、安心して過ごす。 ・様々なものに好奇心と興味を持ち楽しむ。 	B R5 A	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生活リズムに合わせゆったり安心して生活できるよう保育を進めてきた。 ・保育者や友達と触れ合う中で心を通わせながら楽しく遊ぶ経験をした。 ・生活の中で徐々に言葉の意味を理解し行動に結びついたり、囁語を話したりするようになった。 ・排泄面では、嫌がらずおまるやトイレに座る事ができる様になった。 ・食事面では月齢差が大きい為個々に合わせて手掴み食べからスプーンに移行している。また、初期離乳食から開始しほば幼児食となっている。一人一人の様子を見て囁む飲み込む等丁寧に見ていった。 ・異年齢の友達と遊ぶ機会があったことで水泥遊び等でダイナミックに遊んだり、真似をしてやってみようしたり、考えて工夫する姿も見られた。 	B R5 A	<ul style="list-style-type: none"> ・何よりもまず安心して過ごすことができるような環境を大切にして、子どもたちが園でのびのびできるよう見守っていってほしい。 ・最初は1時間の慣らし保育でも、子どもにとっては家庭以外の初めての場所であるので、1日1日を大切に過ごしてほしい。
1歳児	<p>「身近な保育者と信頼関係を築き、園生活を楽しむ。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好きな遊びを十分に楽しむ。 ・保育者や友だちと一緒に身近な自然に触れる。 	A R5 B	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分でやりたい」という子ども達の思いを大切に受け止めながら、方法を伝えたり、難しいところは手助けをしたりしながら成功体験を重ねていけるよう進めていった。身辺自立もだいぶできているので引き続き自信を持って取り組んで欲しい。 ・子ども達の興味に合わせて環境を整えながら、ゆったりと遊びを楽しめるように時間の設定をしていった。お絵描きやリトミック、ダンスなど、のびのびと表現する遊びを楽しんでくることができた。 ・友達への関心が高まり、語彙が増えてきたこともあり、友達と一緒に遊ぶ姿も見られ始めている。まだうまくやりとりできない場面もあるが、保育者が代弁をして伝えていくことで言葉での伝え方を少しづつ覚えていくようにしていった。 ・戸外遊びや散歩に行く機会を大切に取り入れていけるよう心掛けた。 	A R5 A	<ul style="list-style-type: none"> ・何にでも興味津々のこの時期、子どもが“自分でやりたい”という個々の思いを大切にしながら、集団での生活もよく考えて子どもをみていることが伝わる。

			戸外では自然に関心を向けられるよう言葉を掛けたり共感したりして、季節を感じることができるようにしていった。		
2歳児	<p>「一人一人に合った生活リズムに添って一日を過ごす。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友だちと安心して過ごす。 ・生活に必要な身の回りのことを行おうとする。 	A R5 B	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の成長を見守りながら、安心していろいろなことに取り組むことができるよう援助していった。年度の後半は、満3歳児との関わりを深め、一緒に過ごすことで自信を持って進級できるように年少移行への準備を少しづつ取り入れていった。 ・生活習慣の自立も概ね身に付き、自分で取り組もうとする姿が多く見られるようになった。 ・子どもの姿やその時々の取り組みについて具体的に保護者に伝えしていく事で、園と保護者が連携して子どもの育ちを共に支えていけるよう意識していった。 	A R5 A	<ul style="list-style-type: none"> ・自分でやりたい思いが強いけれど自分ではうまくできないその葛藤がある年齢であるが、一人一人の成長を見守りながら、安心して取り組めるようにしていることがわかる。
満3歳児	<p>「園生活を楽しむ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友だちと安心して過ごす。 ・生活に必要な身の回りのことを行おうとする。 	B R5 B	<ul style="list-style-type: none"> ・入園時期が異なり様々な思いを抱えながら登園した子もいた為一人一人に丁寧に関わり、安心して園生活を送る事が出来る様にした。 ・排泄や食事、衣服の扱い等、園での姿と家庭との姿に大きな差がある子も多く、園では子ども自身が意欲的に取り組めるよう職員間で共通意識を持ち一人一人に関わった。 ・子ども同士が言葉のやり取りを繰り返していく中で相手の気持ちに気付いたり、自分の気持ちに折り合いをつける姿も見られるようになった。 	B R5 A	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが意欲的に取り組むことができるような環境をつくり、一人一人の気持ちを汲み取りながら関わる姿が多くみられたので、今後も継続してほしい。
3歳児	<p>「友だちや保育者と一緒に好きな遊びを楽しむ。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分でできる喜びを感じる。 ・好きな遊びを伸び伸び楽しむ。 	B R5 B	<ul style="list-style-type: none"> ・自分でできるようになったことは認め、励ましていったことで自信に繋がり、少しづつ自分でやってみようとする気持ちを持つことが出来た。 ・保育者が話をする時に姿勢を正し、顔を見て話を聞こうとする姿が見られるようになってきたが持続が難しい。 ・園生活に慣れ、安心して遊びに参加するようになり、友達と一緒に遊ぶことの楽しさを味わうことができるようになった。 ・言葉より先に手が出てしまったり、言葉が足りなかったりすることで友達とトラブルになることが多々あった。都度、互いの思いを言葉で伝える事ができるよう援助していった。 	B R5 A	<ul style="list-style-type: none"> ・人との関わりよりもICT等の力が大きい面があるが、乳幼児期にこそ周りの友達や先生との関わりを大事にしていってほしい。

4歳児	<p>「いろいろな遊びに興味を持ち、友だちとの生活を楽しむ。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心して自己発揮し、園生活を楽しむ。 ・自分で好きな遊びを見つけ、夢中になって遊び込む。 	<p>B R5 B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の好きな遊びを見つけ、のびのびと楽しむことができた。ごっこ遊びや戸外遊びも積極的に行い、遊びを通して友達とのかかわりが増えたり、思いを伝え合いイメージを共有しながら遊びを進めることができたりするようになっていった。 ・自分の思いを強く言い過ぎてしまいトラブルになることも多かった。その都度対応をし、相手の気持ちを寄り添いながら伝え方を考えられるようにしてきた。 ・遊びや行事を通して思いやりの気持ちが育ち、自然と助け合ったり励まし合ったりする姿が見られるようになってきている。 ・集団生活のルールを意識し、守ろうとしたり互いに声を掛け合ったりすることができるようになったが、個人差がある。細かく対応をしてきたが引き続き課題が残る点である。 	<p>B R5 A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちがとても落ち着いているように感じた。個々の育ちと集団の育ちのバランスが良くとれているのだと思う。 ・子どもたちの声をできる限りたくさん拾っていつてみんなで考えてほしい。
5歳児	<p>「友だちと夢中になって遊び、認め合う気持ちを持つ。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな体験を重ねながら、主体的に行動する力を付ける。 ・イメージを共有し、創意工夫しながら継続的に遊びを楽しむ。 	<p>A R5 A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当初は自分で考えようとせず好きな事ややりたい活動以外は、任せにしてしまう様子が見られた。意図的に集団で活動する遊びや行事を取り入れる事で話し合いの場が増え、活動への興味を広げ仲間と意欲的に楽しむ姿が多く見られるようになり、遊びの中で「自分で考える力」も培われてきた。 ・今年度は年間を通して、クラスを越えた学年でのかかわりや遊びを大切にしてきた。何度も話し合いをする中で伝える力や話をまとめようとする力が身に付き、学年の団結も深まり集団で遊ぶ楽しさを感じる事ができた。 ・話を聞くことの大切さや落ち着いて行動することの大切さは、繰り返し伝えてきた。個人差がありまだ個別支援が必要な子もいるが、少しづつ意識の変化が見られ、集団としての育ちが感じられるようになってきた。 	<p>A R5 A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・聞く力が付いていることがどれだけその後の人生に大きな影響を与えるか。子どもたちに聞くことの大切さを伝えていってほしい。 ・生活発表会のプログラムに、各クラス担任からのその出し物についてのコメントが載っていた。それぞれのねらいや思いがよく保護者に伝わっているように思う。